

小児矯正という分野は極めて特殊です。私が学生時代の頃はおろか、現在でも専門科目として確立した分野ではありません。私がこの分野に興味を持ったのは、自身の長女の歯並びが心配になったからに他なりません。そんな時偶然出会ったのが、John Mew先生でした。子どもの顎顔面口腔系の発育に関して独自の理論を展開し、不正咬合に関する臨床を数十年に渡って研究されていたイギリスの歯科医師です。当時の私にとって、顎の成長から歯並びを考えることは、斬新な理論でした。顎口腔顔面の発育に関する研究も日進月歩ですが、日々の臨床にフィードバックできれば幸いです。



90歳を過ぎてもなおご健在のJohn Mew先生。日本に講演にいらっしゃった折に記念撮影させて頂きました。

さくま歯科クリニック

荒川区荒川6-41-4 かりーの町屋2階

03 (3809) 5877

takeshi.89reindeers@gmail.com

子どもたちの健全な口腔環境を目指して



当院における小児矯正のご案内です

子どもの咬合育成

当院の小児矯正治療は、上下顎の正常発育に焦点をあて、上顎の成長方向の誘導と拡大により、上下顎の成長を正常に向かわせるの特徴です。使用する装置の大半は、取り外しが可能なので、口腔内の衛生環境を良い状態に保ち、治療に取り組むことが可能です。また、症例に応じて必要な治療を追加するシステムとなっていますので、治療費の負担も最小限に抑えることができます。



日本で歯科矯正治療と言うと、いまだに歯を抜いて歯並びを整える抜歯矯正が一般的です。これは、我が国の歯科医学の発展の歴史が、アメリカからもたらされたことに由来します。顎顔面口腔の育成という観点からは、抜歯矯正が第一選択とはなりません。成長期のお子さんは、上顎と下顎の成長という現象を備えています。従って、将来の歯並びのために大切なことは、正常な成長方向に誘導してあげることになります。本来の成長方向は、上顎が舌の力によって前上方に成長し、下顎は、その成長に追随します。口呼吸に代表される鼻呼吸からの逸脱は、上顎の成長方向を下方に誘導してしまいます。当院では、健全な顎顔面口腔系の発育を目指して、子どもの咬合育成に取り組んでいます。

STAGE1: ¥200,000

上顎の成長方向の誘導と拡大期。バイオブロックStage1と呼ばれる装置を使用して上顎の拡大をします。上顎の成長のピークは、10歳頃に迎え上顎骨の縫合が骨化してしまうため、9歳ごろまでにこのステージの治療を開始します。



STAGE2: ¥150,000

上下顎のバランスの調整期。広げた上顎に適合するように下顎を前に誘導し、上下顎のバランスを調整します。Bimlerの装置（上下一体型）を使用します。



STAGE3: ¥150,000～¥300,000

最終的な歯並びの調整時期になります。歯にブラケットを貼って歯並びの最終調整をします。症例に応じて、上顎の歯並びのみの調整で終わるケースもありますし、下顎の歯並びの調整も必要になるケースもあります。

